

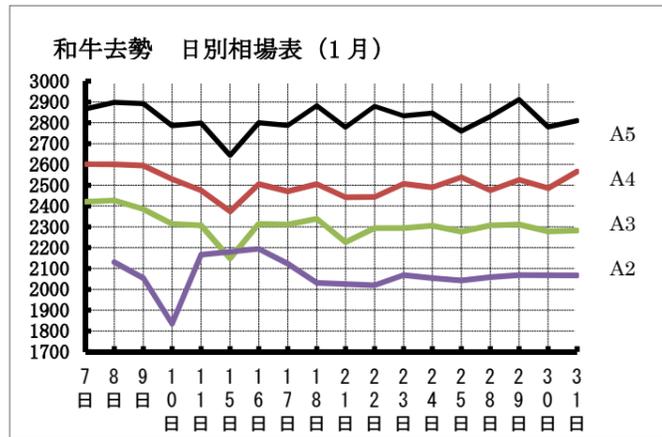
月刊しばうら

2019年 2月号

大動物事業部

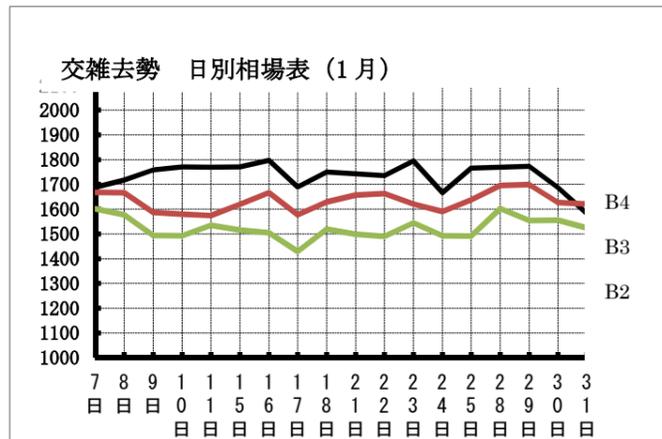
<1月の相場動向>

和牛去勢 A5 が前月比 137 円安の 2,828 円（前年同月比 68 円高）、A4 が同 190 円安の 2,513 円（同 116 円高）、A3 が同 201 円安の 2,325 円（同 247 円高）、A2 が同 222 円安の 2,056 円（同 200 円高）となり、交雑牛去勢は B4 が 82 円安の 1,732 円（同 132 円高）、B3 が同 65 円安の 1,634 円（同 278 円高）、B2 が同 41 円安の 1,521 円（同 325 円高）となった。年明けの枝肉市況については好材料も少なく不安視する見方もあったが、前年比では和牛・交雑牛ともに全面高となりまた、出荷頭数も少なかったことなどから枝肉相場は全般に堅調な相場となった。



和牛去勢 (月平均)

A5	2,828 円 (前年同月比 102.5%)	(前月比 95.4%)
A4	2,513 円 (" 105.6%)	(" 93.0%)
A3	2,325 円 (" 111.9%)	(" 92.0%)
A2	2,056 円 (" 110.8%)	(" 90.3%)



交雑去勢 (月平均)

B4	1,732 円 (前年同月比 108.3%)	(前月比 95.5%)
B3	1,634 円 (" 120.5%)	(" 96.2%)
B2	1,521 円 (" 127.2%)	(" 97.4%)

乳牛去勢 (月平均)

B3	上場なし	
B2	1,001 円 (前年同月比 101.8%)	(前月比 115.3%)

<2月の牛肉輸入量予測>

財務省の貿易統計による、2018年の年間輸入牛肉通関量実績は、前年比 6.0%増の 607,458 t、うちチルドは 4.9%増の 278,814 t、フローズンが 7.0%増の 328,644 t となった。アジア勢との競合による米国、豪州の現地高で年間を通してコスト高が続いたが、水産物からの消費移行あって需要が拡大し前年に続き増加となった。なお、60 万 t 台に乗せたのは 2001 年の 67.3 万 t 以来となっている。

農畜産業振興機構の予測による 2 月の牛肉輸入数量は、前年比 17.3%増の 4 万 3,700t と予測。チルドは、1.7%増の 2 万 300t、フローズンは、35.7%増の 2 万 3,400 t と前月と同様に前年同月を大きく上回ると予測している。

輸入牛肉通関量	12月	前年同月	前年同月比	
チルド	豪州	10,574	10,970	96.4%
	米国	11,008	11,423	96.4%
	その他	1,262	1,016	124.2%
	合計	22,844	23,409	97.6%
フローズン	豪州	14,914	14,782	103.2%
	米国	8,437	7,029	120.3%
	その他	1,421	1,738	81.8%
	合計	24,772	23,549	107.1%

単位：t 出典：食肉速報

<2月の全国出荷頭数予測>

家畜改良センターの個体識別情報によると、18年12月末現在の全国飼養頭数は前年同月比 0.1%増の 384 万頭となり、22 カ月間、昨対増で推移しているが、その伸び率は徐々に低下しており、増頭基調がやや頭打ちとなっている。内訳は黒毛和種が同 2.5%増の 163 万 5 千頭、交雑牛は 4.1%減の 50 万 4 千頭、乳雄は 4.5%減の 27 万 6 千頭、乳雌は 0.7%増の 134 万 7 千頭で、黒毛和種は増加基調、交雑種は 2017 年 12 月以降、昨対割れが続いている。

農畜産業振興機構による 2 月の出荷予測頭数は、全体で前年比 2.2%減の 7 万 6,200 頭と予測している。品種別にみると和牛は 0.3%増の 3 万 1,600 頭、交雑種は 1.0%減の 1 万 8,500 頭、乳用種は 6.5%減の 2 万 4,900 頭としている。

東京食肉市場の 2 月のと畜頭数は 6,300 頭を予定しています。

<2月の牛枝肉相場見通し>

2月の消費動向は、末端消費の落ち込む時期でもありまた、大手量販店の決算月と相まって、相場は弱もちあいの相場展開か。ただし、全国出荷頭数は少ない状況やまた、インバンド需要が期待される堅調な外食からの引き合いなどで和牛は上物規格の仕上りの良いものから堅調な相場が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,700~2,800	B4	1,700~1,750
A4	2,300~2,450	B3	1,600~1,650
A3	2,200~2,300	B2	1,450~1,500
A2	2,000~2,100		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	900~1,000		

小動物事業部

12月の全国と畜頭数は、前年同月比 0.4%減の 145 万 1,214 頭と前年より減少した。また、豚肉通関数量は 7 万 3,207 t（前年比 12.0%減）と大きく下回り、前月からも大きく減少した。チルドは年末の国内マーケット状況を踏まえて、この時期の調達を抑えたこと、フローズンは 12 月 30 日の TPP11 の発効を見据えて対象国の通関を繰り延べたことが減少した要因とみられる。

2018年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	輸入物	国産物	輸入物	国産物
1	77,568	74,247	160,209	16,549	67,918	77,928
2	71,805	67,889	164,705	17,111	63,393	71,194
3	78,201	77,785	160,500	20,474	81,990	74,791
4	75,496	80,144	159,213	18,753	81,431	77,128
5	76,152	80,227	161,265	19,021	78,175	75,842
6	69,573	76,677	161,087	17,434	76,855	71,104
7	68,709	78,084	158,705	17,332	80,466	68,762
8	70,135	79,654	157,848	18,182	80,511	69,223
9	67,675	68,972	149,511	18,048	77,309	67,772
10	82,053	83,979	147,729	18,178	85,761	81,863
11	82,254	83,346	144,982	18,435	86,093	81,925
比	105.9	107.1	97.1	122.2	104.5	105.3

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：トン、%

12月豚肉通関実績						単位：トン、%		
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前比			
アメリカ	17,312	89.2%	デンマーク	7,199	78.5			
カナダ	17,077	102.2%	スペイン	7,061	73.7			
メキシコ	988	103.3%	メキシコ	6,825	99.3			
			アメリカ	4,007	97.7			
			カナダ	2,633	79.0			
合計	35,380	95.4%		37,826	82.0			

<1月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
7日	72,400	429	408	1,140
8日	71,700	439	412	934
9日	70,800	468	435	796
10日	72,700	467	403	991
11日	69,600	467	421	1,041
15日	78,100	469	453	1,016
平均	72,550/日			956/日

正月休み明け相場は 400 円台で推移している割には、休み明けの補充買いや週末の三連休に向けての手当てもあり、全体的に荷動きは堅調な展開となった。また、学校給食が再開したことによりスソ物の荷動きは良好傾向となっている。休みの影響で重量オーバーにより格落ちする枝肉が目立った。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
16日	74,000	475	440	977
17日	73,000	469	440	875
18日	72,900	457	426	958
21日	69,000	432	402	891
22日	70,300	449	405	932
23日	68,000	430	386	830
平均	71,200/日			911/日

引き続き安定した出荷頭数が続き、輸入物がタイトな状況となっていることもあり、全体的に堅調な動きとなっている。特に鍋物需要の中心となるバラは引き合いが強い。また、ロース、ヒレについても受験シーズンでとんかつ用に特売が組まれるケースが増えており、荷動きは良好化してきている。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	70,300	434	400	914
25日	68,900	422	363	1,022
28日	66,500	387	361	884
29日	69,100	442	413	967
30日	63,300	477	424	749
31日	67,900	480	445	793
平均	67,667/日			888/日

29日に岐阜県で7例目となる豚コレラが発生した。今後とも続発するようなことがあれば需給への影響も避けられないことが予想される。

輸入物はカナダ産に加えて米国産にも通関遅れが出た影響によりタイトな状況となったが、全体的に鈍化傾向となった。

<2月の豚枝肉相場見通し>

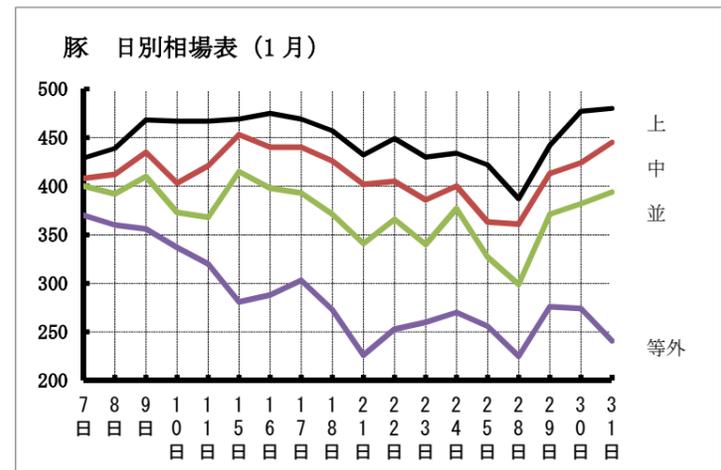
農林水産省による 2 月の全国と畜頭数予測では、前年並みの 129 万 4,000 頭と予測している。当市場の 2 月の集荷予定頭数は 1 万 7,000 頭となっており、一日当たりでは約 894 頭の見込みである。

農畜産業振興機構によると 2 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 5,600 トン（同 111.4%）、内訳はチルドが 3 万 3,400t（同 110.15%）、フローズンは 4 万 2,200t（同 112%）の予測である。

一方、気象庁の季節予報によると 2 月は平年よりも暖かい日が多いとされていることから鍋物商材の売れ行きにも影響が及びそうだ。

また、関東の一部地域では PED の発生で特別防疫対策地域に指定されるなど疾病の広がりによっては今後の出荷頭数や相場への影響も考えられる。

このことから当市場の 2 月加重平均は上物価格で 480 円前後、中物価格は 450 円前後と予測する。



出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19
 東京食肉市場株式会社
 TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127
 URL http://www.tmmc.co.jp/